

つえのおじさんとぼく

熊本市立秋津小学校 三年 山中 健瑠

二年生のある日、ぼくはいつものように友達と家に帰っていたら、道で一人のおじさんに会いました。そのおじさんは、つえとカードをもっていて、

「目があまり見えないので、学校まで連れていってください。」

とカードを見せながら話しかけられました。さいしょは、少しこわくてどきどきしました。なぜなら、入学してからずっと先生に知らない人に話しかけられたら一メートルいじょうはなれてくださいと言われていたからです。でもそのおじさんは、つえで周りをかくにんしていて本当に目が見えずにこまっている人だとわかり、ゆうきをだして学校まで案内することになりました。

あん内する事にきめたぼくは、おじさんの手をにぎりゆっくり歩きながら、だんさがあることや左右にまがることを話しながら学校

に行きました。学校からそんなに遠くない所
だったけどいつもの三ばいくらい時間がかか
りました。

おじさんに何のようじで学校に行くのか聞
くと、しん号きに音をつけてほしいからだ
と教えてくれました。目が見えるぼくは、しん
号きに音がなくても道をわたることができ
けれど、目が見えない人は、耳を澄まして周
りの音をよく聞いて行動するしかないのかな
と思いました。もし自分だったらこわくて一
人ではあまり外に出たくないと思いました。
だから、どんな人にもやさしくあん全にわた
れる音の鳴るおうだん歩道にせかい中全部が
なればいいなと思いました。

はじめはすごくこわかったけどぼくはこの
おじさんからゆうきをもらいました。人をた
すけるのっていいなとあらためて思いました。
今度、目が見えずにこまっている人に出会っ
たら先生からかたを持つといいよとアドバイ
スをくれたのでそうしたいと思いました。